

# 「中学校の支援学級でこそ性教育を」

堺市立晴美台中学校 松本 恭子

## 1. はじめに ～支援学級における「性教育」の必要性～

第二次性徴の真っ只中にある中学生に、「性」の正しい知識を伝え、自分自身の「生」と「性」を大切に捉えるために「性教育」を行うことは、本当に大きな意味があると思われます。しかし現状では、体育科・家庭科・養護教諭などの教師が、教科指導や集会での一斉授業を数回行うだけという学校が多いのではないのでしょうか。取組が難しいので保健師さんに依頼する学校もあるでしょう。まして性教育の経験に乏しい私のような支援学級担任は、必要性を感じながらも自信の無さからつい後回しにしてしまいがちです。

「性教育に取り組まなければ。」「はやく教えておこう。」と思いながら後手になってしまったために生徒に辛い思いをさせてしまった自分自身の反省や、支援学級生徒の胸が痛くなるような体験談を通して、中学校の支援学級では、個々の発達に合わせてじっくり取り組む「性教育」、少人数の中でこそできる「性教育」が必要だと切に感じています。その理由は、以下の通りです。

- (1) 幼い言動が残る支援学級の生徒たちも、体は大人へと変化しており「性」の知識が必要であるにもかかわらず、授業や集会の一斉授業では自分のこととして理解できない場合が多い。
- (2) 特に対人関係に課題がある生徒においては、同世代の子ども同士の情報交換からも漏れてしまいがちで、自分の体に起こっている変化を病気だと思って悩んでしまうケースもある。
- (3) 状況判断の苦手な生徒、素直に人を信じすぎる生徒、家庭や友人関係に寂しさを感じている生徒は、一般的に性犯罪の被害者になりやすい。特に支援学級の生徒においては、被害者となっても事実の認識が甘かったり、SOSを出すタイミングを逃したりして被害が継続してしまうことがある。また女生徒の中には、性被害にあっているにもかかわらず、「恋人ができた」と認識している場合もある。
- (4) 「性」に目覚めたとき、その表現の仕方がストレート過ぎてしまうことがある。(自分の性器を人目を憚らず触ってしまう。無意識で胸をじっと見てしまう。異性に触りにいってしまう等)「性」の関心に対する表現が拙すぎるために、異性から警戒されたり気味悪がられたりして、ときには性犯罪者のような扱いをされてしまう。そのため本来、祝われるべき心身の成長が、周囲からの拒否反応や叱責によって「悪」であるというイメージに繋がってしまうことがあり、「性」そのものを嫌悪したり、歪んだ「性」の認識に陥ったりしてしまう場合がある。
- (5) こだわりの強さがある生徒にとっては、「性への興味」に捉われたとき、上手に気分転換することが他の生徒以上に難しい。昇華できるような趣味やスポーツなどを持っていない場合はなおさらである。自慰の具体的な方法も含めて教える必要のある生徒もいる。
- (6) 特に母子家庭の男子、父子家庭の女子においては、保護者からの「性教育をして欲しい」というニーズがある。

服部祥子氏は、その著書『障害者と性』<sup>※(1)</sup>で「知的障害のある青少年も第二次性徴は健常児とほぼ同様におきるとする複数の報告を受け、身体面では通常の性的発達をしているのに、それを社会

的に受け入れられ易いように表現する方法を学習する機会を奪われた状況の障害者が、不適切な言動のため、社会から全人格まで否定・拒絶されることの矛盾」を指摘しています。

また藤川<sup>※(2)</sup>洋子氏は東京家庭裁判所でのプロジェクト調査（2004年実施）の結果から「少年犯罪の1割程度に発達障害がある少年が含まれている」が、「行為別では、性犯罪が(43.8%)と最も多く」、通常の青年犯罪の司法統計では「性非行は1%に満たない」ことから、「性非行と放火の割合が突出している」と指摘しています。また「これらの非行態様は、いずれも完全な一方通行であって被害者の反応を期待しておらず、一般の非行少年が、被害者の恐怖心や羞恥心を利用して性犯罪におよぶのとは本質的に発生機序が異なっていた。」と書いています。

しかし、木戸<sup>※(3)</sup>久美子氏は2005年、「発達障害と性犯罪および性非行についての文献的考察」の中で「発達障害が性犯罪や性非行を起こす場合、それまでに激しいイジメの継続のような否定的環境要因がある」としています。そしてだからこそ、思春期における周囲の適切な対応と教育が重視されるというのです。

以下は、「性教育」については全くの素人の私が、こうした必要性に迫られて支援学級での「性教育」に取り組んだ教育実践において、「留意した点」「取り組みやすい指導プラン」「役立つ書物」の一例です。自分自身も生徒と一緒に学びながらの実践ですが、生徒たちの関心は深く、保護者の理解も深まって「取り組んで良かった。」と実感しています。

## 2. 支援学級での「性教育」の留意点

支援学級で「性教育」を行う時、特に留意している点はいくつか、あります。

- (1) 「性」を自分の生まれてきたことの原点と捉え、その素晴らしさを伝える工夫をする。二次性徴を次の「生」へつながっていくものとして肯定的に捉えられるようにし、自己肯定観を育む。

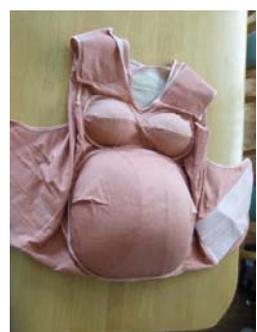
- ・自分の母子手帳の活用。
- ・「いのちのまつり」など優れた絵本や写真集の活用。（後述）
- ・生命誕生のビデオを見せるなど。

- (2) 個々の発達に合わせて、できるだけ分かりやすい言葉で、具体的に伝える。絵や模型など視覚的に訴えるものを多用する。  
ゆっくり時間をとって、丁寧に質問を受ける。必要があれば、個別対応で質問を受ける。

- (3) 口・胸・性器などのプライベートゾーンを大切なものとして扱うことを教える。相手のプライベートゾーンを許可なく触ったり、じっと見てはいけないこと、自分のプライベートゾーンを触っていい時と場所を具体的に考えさせる。

- (4) 言葉や口で教えるだけでなく、体験学習やロールプレイングなどを多用する。

- ・妊娠疑似体験
- ・自分を守るための避妊具の必要性と付け方。
- ・痴漢や性的な誘惑から身を守るためのロールプレイングなど。



(5) 異性を好きになった時の表現の仕方、表現の時期をみんなで考える。

- ・付き合いには相手のOKが必要なこと。
- ・OKが出たあとのデートプランや付き合い方など。

特に人間関係の希薄な生徒にとっては、同世代からの情報量も少ないことが予想されるので、将来好きな人ができた時に、どういう行動をとるのが良いか、皆の意見を聞く機会を作る。

(6) 可能であれば、複数の教師で教える。(男女の教師がいれば、なお良い。)

(7) アンケートや参観などの形で、保護者の参加を促し、協力して頂く。

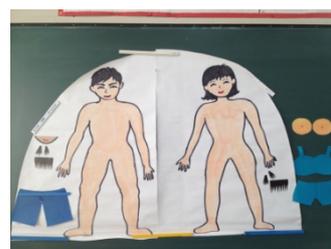
特に出産の授業における保護者の影響力は大きく、生徒にとっても保護者自身にとっても愛情の確認作業になる。

### 3. 「性教育」プランの一例

対象生徒の年齢・障がいの程度・発達によって、全く異なるプランになると思いますが、一例を挙げてみました。

#### 第1時 「自分の命の誕生とその成長」

- ・母子手帳も持って来て、互いに読み解く。  
(用意できない生徒には教師の母子手帳を渡して読む係にするなどの配慮が必要)  
愛されて育まれて来た命であることを確認。
- ・体の成長と二次性徴について(ここでは簡単に)  
具体的に図で確認。このときプライベートゾーンについても学習。
- ・痴漢や性的な誘惑から身を守るためのロールプレイング。



#### 第2時 「男の体」

- ・男性の性器について知る(図で示す)
- ・ペニスの働きを学習し、男性の第二次性徴を具体的にあげる。  
(勃起や射精は、個人差があるが、普通のことであることも教える。)
- ・ペニスを清潔に洗う方法。(生徒によっては)自慰の仕方・場所など。  
包茎を心配している生徒がいれば、それについても教える。



#### 第3時 「女の体」

- ・女性の性器について知る(内性器も外性器も図で示す)
- ・女性の二次性徴を具体的にあげる。月経の起こるしくみや月経時の対処法。(ナプキンを見せる)
- ・月経中の女性(個人差があることも説明)・男子は思いやりある接し方。
- ・ワギナを清潔に洗う方法。(生徒によっては)自慰の仕方・場所等。
- ・自分を守るために必要なこと。



#### 第4時 「性行為と命の誕生について」

- ・「性行為」について。交尾との違いは「心」が必要なこと。また命を授かるかもしれない責任と責任を果たせる条件は何かを考える。(具体的な避妊方法も含む)
- ・命の誕生。命がどのように育つか。(図・写真使用)妊娠疑似体験。
- ・赤ちゃんが誕生する瞬間のビデオを見せる。(可能であれば、保護者にも参加して頂き、妊娠を知った時の気持ちやその後の過程・誕生時の気持ちなどを語って頂く。)

- ・赤ちゃんにできること（人間の赤ちゃんは、例外なく周囲の人に助けられなければ生きられないことを知り、自分がだれかに愛されて育まれて来た大事な命であることを確認する。）



#### 第5時「好きな人とのつきあい」

- ・人を好きになったときにどう表現するのか、その時期や場所などをみんなで考える。
- ・つきあいには相手のOKが必要なこと。
- ・OKが出たあとのデートプランやつきあい方など。（いろいろ考えると楽しいです。）  
デートDVをしない、させない。意思を伝え合う。相手の意思を認め合う。

（注）ここに挙げたプランの例は、私一人で考えたものではありません。ぽぽろスクエアの性教育スタッフ（千住真理子先生・梅崎美智子先生・西谷啓三先生・林至衣先生）、特に千住先生が長年培って来られた指導案をベースにさせて頂いたことを併記しておきます。

## 4. 「性教育」で役に立つ本の一例を紹介

支援学級で授業をしようと思うと、教科外の教師にとっては「具体的な写真やイラストなどが載っている本がないかなあ」と探すことから大変です。そこで、私も教えて頂いてとても役立ったと思う本をいくつか紹介しておきます。

（ご紹介したい本は他にも何冊もありますが、今回は5冊にしました。）

### ①『いのちのまつり』

“ヌチヌグスージ”

作：草場一壽

絵：平安座 資尚

サンマーク出版

絵本です。自分の命が驚くほどたくさんの命の繋がりの中で生まれてきたことを絵にした最後のページが圧巻です。



### ②『交尾』

高柳美知子・  
松本徳重監修

こどもの未来社

ひたすらいろんな動物が交尾している写真集です。子どもたち、好きです。



### ③『おれたちロケット少年』

マンガ：手丸かのこ

解説：金子由美子

マンガとQ&Aで、男の子の二次性徴を楽しく解説しています。勃起や包茎の具体的な絵もあって、心配している生徒への貸出図書としても使えます。女の子バージョンの『ポップコーン天使』もあります。どちらも、大人が読んでも面白いです。



### ④自立生活ハンドブック

『性 say 生』

全日本手をつなぐ育成会

プライベートゾーンや生理の対処法・マスターベーションの仕方・コンドームの付け方・セックスの図などこれでもかというほど具体的に書かれています。自分の性を守る方法・お金儲けに使わない・NOと言える勇気など、性について多岐にわたって大きな絵つきで書かれています。授業で使う絵のヒントにもなるし、解説の仕方を学ぶにもいいと思います。



## ⑤『SEXUALITY No.55 今日もおいしい！性のレシピ』エイデル研究所

なかなかまとまって性教育の時間がとれない学校現場に合わせて、朝の学活や終学活、ちょっとした時間を使って性教育ができるように工夫されている本。通常の学級ならそのまま印刷して使えるいろいろなシートがついています。支援学級で使うなら、シートを簡素化して項目も減らす方が良いかもしれません。長いこと性教育に携わってこられた先生方のアイデアが、ギュッと詰まっている感じの本です。通常の学級で取り組んで、そこで出てきた意見を支援学級でも紹介するという使い方も、良いかもしれません。



## 4. おわりに

生徒たちは、「性教育」が好きです。初めは恥ずかしがっても、本当は知りたいと思い、求めています。この授業は、生徒たちが本当に知りたいことを教える授業ですから、当然楽しい授業になります。そして、必ず役に立つ学習です。前向きな「生」につながる授業です。加えて、保護者を巻き込むことができれば、思春期における保護者と生徒との関係改善や、保護者と教師との交流の深まりにも一役買うという、おまけまでついています。

繰り返し言いますが、私は「性教育」の素人です。自分の生徒や卒業生の中に、「性」のトラブルを抱えるケースが何度も起こって、この学習の必要性を痛感しました。何の知識もない中で始めましたが、やり始めると素晴らしい先輩がたくさんいること、わかりやすい書籍がたくさんあることを知りました。なにより、生徒と一緒に勉強しながら、自分自身が人間の体の神秘に驚いたり感動したりしながら、授業をしています。もし、私のように「性教育」の必要性を感じながら、苦手意識からちゅうちょしている方がいたら、どうぞ、一緒に一歩を踏み出しましょう。

自分の「性」の発達をうまく受け止められず、とまどったり誤解を受けたりしてしまいがちな、支援学級の生徒たち。だれでもが通過する「性」の成長段階で、適切な「性」の知識を得て、明るい「生」を育ていけるように、支援学級でも個に応じた「性教育」に取り組んでいきましょう。

## 5. 参考文献

- (1) 服部 祥子 編著 (1989)『障害児と性 思春期の実像』日本文化科学社
- (2) 藤川洋子 (2005)「青年期の高機能自閉症・アスペルガー障害の司法的問題——家庭裁判所における実態調査を中心に」『精神科』7 (6) (通号 42) 507～511
- (3) 木戸久美子 (2005・3)「発達障害と性犯罪および性非行についての文献的考察

**The Sex Offense Concerning in the Developmental Disorders」**

山口県立大学社会福祉学部紀要 (135 - 139, 2005-03-20)